



東京女子医科大学病院

# 医療連携ニュース

2014年 秋号



副院長

川名 正敏

臨床研修教育部門担当

## 副院長あいさつ

当院の卒後臨床研修センターは卒後臨床研修必修化となった2004年に設立され、これまで1期生から11期生まで750名を超える初期臨床研修医がトレーニングを受けてきました。多彩な診療部門と多くの専門医に接しながら、当院の基本理念の一つである「患者視点に立った安全・安心な医療の実践」を経験することにより、将来の専門にかかわらず頻度の高い疾患やプライマリ・ケアに対応できる医師を育成することを目標として運営してまいりました。幸い本学出身者のみならず全国から多数のモチベーションの高い若者が集まっています、地域・出身大学・男女の違いを超えて交流しながら生き生きとした研修を行っています。

このような当院のプログラムで育った医師たちが、ご紹介いただいた患者さんの外来・入院治療を通して、あるいは地域医療研修をお願いしている場合には直接研修の場で、今後いろいろとお世話になることがあるかと存じます。これからも本学の基本理念であります“至誠と愛”に基づいて医の心とプロフェッショナル能力を備えた医師を育てていく所存でございますので、先生方には忌憚のないご意見をお送りいただきながら、次の世代の医師を育てていきたいと考えております。今後ともよろしくご指導のほどお願いいたします。



心臓血管外科  
診療部長

山崎 健二

## 診療部長あいさつ

当院では、新生児から高齢者の方まで、先天性心疾患、虚血性心疾患、弁膜症、大血管、不整脈、重症心不全、等あらゆる心臓・大血管疾患の外科治療を行っており、手術総数は累計35,000例を超えました。また再生医療の臨床応用や、ステントグラフト治療、ステントバルブ、次世代型補助人工心臓ならびに心臓移植等の高度先進医療にも積極的に取り組んでおります。心臓血管手術は患者さんの生命予後・QOLに極めて重大なインパクトを与える治療です。それゆえ派手さは無くとも、長期遠隔予後の観点から安全・確実・最善な治療法を実践することが最も重要です。患者さんやかかりつけの先生方に満足し喜んで頂けますよう、またご要望に沿えますよう、より緊密かつ良好な病診連携に取り組んでいきたいと思っています。

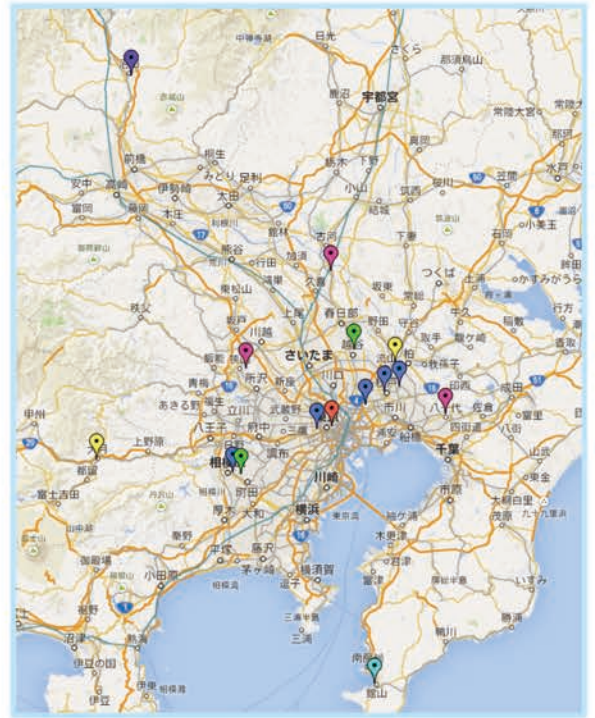


## 心臓血管外科の医療連携に関する取り組み

心臓血管外科 津久井 宏行

東京女子医科大学心臓血管外科では、病診連携に積極的に取り組んでいます。東京都内はもちろんのこと、関東一円(神奈川、千葉、埼玉、群馬、山梨)のクリニック、病院に医局員が伺って、心臓血管外科外来を行っています(図)。心臓手術を必要とする患者さんの診療と術後フォローアップに加えて、「こんなとき、心臓外科医に気軽に相談できたら…」という他科の先生方のご要望に応えられるよう、地域のクリニック、病院にて、病診連携を繰り広げています。

また、心臓移植実施施設としての役割を果たすべく、フットワークの軽い病診連携に取り組んでいます。心臓移植や人工心臓を必要とする重症心不全の患者さんに関するコンサルトを受けると、患者さんが入院中の病院に伺い、今後の治療方針決定や心臓移植申請支援などを迅速に行っています。緊急性を要する場合には、病院訪問から一週間以内に緊急搬送、人工心臓植込みで、救命するといったこともあります。大学病院の「敷居の高い」イメージを覆すべく、「相談しやすい大学病院」、「頼りになる心臓外科」を目指し、東京女子医科大学心臓血管外科は進化を続けています。



## 循環器内科の医療連携に関する取り組み

循環器内科 佐藤 加代子



東京女子医科大学 循環器内科(診療部長 萩原誠久)は、地域中核病院の役割を担うための取り組みとして、平成21年10月に「東京女子医科大学循環器内科医療連携の会」を発足し地域の先生方との医療連携を深めてまいりました。

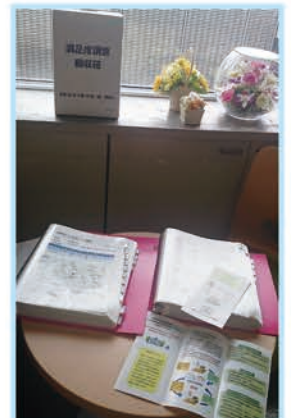
平成23年からは、心臓血管外科、循環器小児科を加え、「東京女子医科大学心臓病センター医療連携の会」へと発展させております。世話人には新宿区医師

会長 木島富士雄先生にご就任いただき、新宿区、中野区、杉並区、練馬区の先生を中心に約100名の先生方にご参加いただいております。

毎年10月第4木曜日に総会を開催し、心臓病センター各科の診断治療のご紹介、4月には循環器疾患領域の学術講演会をその領域のエキスパートの先生をお招きし開催しております。

また、地域医療機関への逆紹介と連携を推進するため、当院医療連携で作成したリーフレット「主治医は二人」、循環器内科で地域の先生方へお願いしたアンケート結果に基づいた「連携先リスト」を外来と病棟、医療連携室に設置し、初診時や入院時より病状安定後の逆紹介を推進しております。

心臓病センターのモットーとする「患者様のためのCardiology」に沿った診療に真摯に努めるよう、循環器内科一丸となって、先生方との連携をより一層深めていきたいと考えております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



## 補助人工心臓患者の在宅調整

急性・重症患者看護専門看護師 山中 源治



病院外トレーニングの様子



VAD 退院調整多職種カンファレンス

2011年から末期重症心不全患者は補助人工心臓(以下、VAD)を装着して退院することが可能となりQOLの向上が期待されています。一方で、VAD植込み患者は生命維持装置とも言える医療機器と共に常時生活する必要があるため、退院後も、機器管理が安全・確実にできるか、合併症の予防管理が適切にできるか、社会との関係を再構築できるか等、さまざまな不安や葛藤を抱えます。そこで、退院支援プログラムを作成し、在宅に安心して帰れるよう支援しています。また、在宅療養支援体制整備の一環として、「VAD看護専門外来」を開設しました。現在は、患者・家族ケアを中心に、病棟と外来のケアに関する連携の橋渡しや、医師・看護師・臨床工学技士など多職種の連携の窓口となっています。

ただし、これだけでは、VAD植込み患者のサポートは不十分です。さらに家族の負担も軽減する必要があります。今年からは、地域のクリニック、訪問看護ステーションとの医療連携を開始しました。この取り組みは全国的にもほとんど例がありません。退院前に地域の看護師や医師と共にカンファレンスを開催、退院後も連絡を取り合いながら、患者の個別性に合わせたケアの連携を図っています。地域と連携しながら、連続性のあるケア・サポートを提供し患者・家族の不安軽減やQOL向上に寄与したいと考えています。

## 循環器看護チーム 急性期ケアから回復期ケアそして退院支援

家族支援専門看護師 藤井 淳子



定期的に在宅支援診療所での勉強会に参加しています!

患者の高齢化に伴う入院の長期化、繰り返す再入院、また若年の心筋症患者が増加しています。このような状況の中で、服薬・生活指導など看護の役割は重要です。そして、それらは院内の部署間での継続した看護や地域と連携した看護の提供が求められていることでもあります。

循環器看護チームは、2013年度に発足し、外来、手術室、病棟、集中治療室のそれぞれの部署から看護師が結集し、現在27名で活動しています。チームの目標は、1人ひとりの患者に急性期から回復期、そして在宅療養を見据えた「途切れない“線の看護”」です。チームでは患者教育を含めた包括的心臓リハビリテーションや退院支援に必要な知識や技術を学び、検討し、さらには地域で開かれる勉強会にも参加し、地域とのつながりを増やしています。

活動を通して、院内のみならず地域との連携の中で【顔が分かる関係】から【顔の向こう側が見える関係】、そして【顔を通り超えて信頼できる関係】に発展していくことを目指しています。



# 講演会のご案内

## 東京女子医科大学 第32回公開健康講座 ～みんなでサポートする糖尿病～

- 日時:平成26年11月15日(土)13:00～16:00
  - 場所:東京女子医科大学 弥生記念講堂
  - 対象:一般の方々(医療従事者の皆さん)
  - プログラム:
    - ・連携してすすめる日本の糖尿病 糖尿病センター主任教授 内淵安子
    - ・血糖値が高いことがなぜ悪いのか? 准教授 馬場園哲也
    - ・家族に糖尿病のある方も早期発 准教授 岩崎直子
    - ・インスリンと歩んだ50年 糖尿病センターあけぼの会会長 大谷敏代
    - ・運動とカラダのお手入れしませんか? 運動コーディネータ 松井浩
- 15:10～ 特別講演「日本型食生活(和食)で健康と長寿を」  
座長 海老名総合病院 糖尿病センター長 大森安恵  
演者 東京農業大学名誉教授 小泉武雄  
農水省「和食」文化保護・継承国民会議委員

参加費:無料(事前申し込みは不要)

## 第48回 東京女子医科大学 消化器病臨床フォーラム

- テーマ:過敏性腸症候群(IBS)
- 日時:平成26年11月26日(水)19:00～20:30
- 場所:東京女子医科大学 総合外来センター5階 大会議室
- 当番世話人:消化器内科 米澤麻利亜
- プログラム:
  - ・講演「新しい大腸検査～大腸カプセル内視鏡検査について～」 消化器内科 助教 大森鉄平
  - 「IBS・IBD 下部消化管機能異常の診療」 消化器内科 准講師 飯塚文瑛

参加費:無料 軽食あり(事前申し込みは不要) ふるってご参加ください。

## 医療連携窓口のご案内

当院と地域の医療機関やかかりつけ医の先生方との連携の窓口として、紹介元の先生方からのお問い合わせや、電話やファクシミリによる外来診療やセカンドオピニオン外来の予約を行っております。FAXの専用申込用紙は当院ホームページ 社会支援部の「医療関係者の方へ」から専用申込用紙がダウンロードできます。是非ご利用ください。

- \*予約専用電話 03-5269-7160 <月～金 9:00～17:00、土 9:00～12:00>
- \*FAX診療予約 03-5269-7387 <月～金 9:00～17:00、土 9:00～12:00>

